

ものづくり広報

平成25年度事業を振り返って

平成25年度ものづくり産業支援センターの事業は、「交流」を大きなテーマに掲げ、さまざまな支援活動を展開してきました。自社を知り、相手を知りそして自社を見つめなおす。中小企業にとって、異業種の手法や技術を知り触れられる機会は、非常に有意義でありまた自社の事業展開を進める上で、大きなチャンスにもなり得ます。平成25年度の各支援事業を行うにあたっては、特に上記の点を意識しながら行ってきました。以下に平成25年度事業の総括をご説明させていただきます。

◆巡回訪問活動

支援活動を支える巡回訪問は、センターの活動として重要な役割を担っています。25年度はリピート企業のみならず新しい企業開拓を意識し、年間延べ700社近い企業訪問を行い、新規開拓企業は12社、リピート企業が約250社という結果となりました。1社あたり約2.5回の訪問数となり、支援課題の発掘が21件、企業間や関連機関とのマッチング4件、集合研修・市役所ロビー展示・勉強会・補助金制度の周知など、迅速な情報提供を心掛けています。経営者の相談事を企業間や関連機関と相互に情報のやり取りができるようになったことで、これから新たな世界が広がっていくことが期待できます。

◆支援活動

センター事業の中心ともいえる支援活動は、企業の要請にいかに応えられるかが大切となります。25年度の支援件数は46社で62件となりました。その内、新規企業からの申請は11社（約24%）占めることとなりました。完了報告書のコメントでは、従業員のスキルが上がった、モチベーションが上がった、期待以上の効果が出たなど、高い評価をいただいています。こうした結果がリピート企業の増加、支援活動の再活用につながっていると考えられます。



支援活動の様子

◆人材育成活動

企業からの要望が高い集合研修にマネジメント研修が加わり、試行を完了、準備が整った1年となりました。集合研修（リーダー・ベーシック）は28社で49人の修了生を輩出しました。市内の企業の協力を得て、現場実践訓練は独自のプログラムとなっています。また講師が企業に直接出向いて行う出前研修も4社で39人と、ますます人気の高まりを見せています。マネジメント研修では、7社のご協力を得て企業のリクエストに基づいたオリジナルのカリキュラムを作成し、企業のニーズに沿った内容となるよう準備を進めています。



鈴鹿高専での実習の様子

中小企業が不得意な分野ともいえる人材育成プログラムは、今やセンターの活動の柱に成長しました。これからも皆様のご要望をお寄せください。

◆情報発信活動



ものづくり産業展示コーナー

こうした情報発信、異業種企業交流の場として「ものづくり企業交流会」を2月に開催しました。内容は企業展示、初企画として「すずか輪ゴムグランプリ」、勉強会といった内容で、皆さんの協力のもと大盛況で終えることができました。

皆さんの声をいくつか紹介すると

- 企業展示では「他市を巻き込んだ魅力のある場作りをお願いします」
- すずか輪ゴムグランプリでは「恒例行事としてもっと環を広げてほしい」
- 勉強会では「講演者との意見交流の場づくりをもっと進めてほしい」

など、貴重なご意見を多数いただきました。

◆ベーシック研修アレコレ

この春のベーシック研修は4月中旬、3日間コースで開催します。2009年の試行からスタートし延べ95人が受講しています。

新入社員対象の研修として人気が高く、企業あたりの受講希望人数が5人を超える場合は企業に出向き研修する出前研修でお応えすることにしています。近年ベーシックコースの集合／出前研修の比率は半々ほどになっています。

ベーシックコースの人気の源は

- ・初めての仕事は不安・辛い・シンドイ
- ・なぜ働くのか
- ・職場の困り事ワーストは人間関係 などの悩みを

『座学→工作→グループ討議→発表』でコミュニケーション力を高め解決する方法を探求するところにあります。



ベーシック研修の様子

◆鈴鹿市モノづくり元気企業支援事業補助金

対象 市内に本社または研究開発を実施する主たる事業所がある中小製造業者など

対象事業 新製品または新技術の研究開発で、次世代産業に関して大学・研究機関などと共同で行う事業またはその指導を受けて行う事業

補助金額 対象経費の2分の1以内の額（限度額は240万円）

今年度の交付先は、

○株式会社エース設備：園芸倍土造粒システムの開発

○MDI株式会社：エアコンに代わる工場等における省エネ空調技術

○三恵工業(株)：次世代折りたたみ椅子座パット結合方法の研究

○(株)プリンスプル：グローバル商品化を目指したプラズマ式内視鏡保管庫の開発・試作

以上の4件が採択されました。今後製品化に向けての取り組みが期待されます。

※平成26年度も、産学の連携による研究開発の強化と市内製造業の活性化を図るため、5月ごろに募集を行う予定ですので、詳細が決まり次第お知らせします。

鈴鹿市ものづくり企業交流会を振り返って

開催日 2014年2月16日(日) 会場 鈴鹿市民会館

◆交流会の狙いと成果

今回から「企業祭」を「ものづくり企業交流会」と名称を改め内容を充実しました。

ものづくり中小企業の仲間たちが一堂に顔を合わせ、主な狙いとして

- ・企業の体質強化
- ・日頃の苦労を分かち合う。
- ・新しい仲間を見つける。
- ・独自の技術や技能を認め合う。
- ・中小企業の人材と技術シーズの発掘

などを掲げました。

鈴鹿の元気の源は私たちが主役！ エネルギーを発散していただく自己主張の場となりました。当日は目標を大きく上回る350人を超える来場者があり。企業数は146社で初めて会場にお越しになった企業の方は37社でした。参加者は、経営者や従業員のみならず、小中学生、家族、女性、海外の方など幅広い層の方々にお越しいただき盛りあがりを見せました。

なお、企業が主役の精神から、企画段階より本番の運営まで3幹事会社の方に代表として参画をいただきました。

幹事会社のコメント

(株)オーテック・鈴鹿
大内田社長

企画から運営まで体験し、アドバイザーの皆さんの熱意には感心し驚きでした。皆さんとの交流で明日への元気をいただきました。

(株)野島エンジニアリング
増澤(取)工場長

自社製品や得意技を披露する場はなかなか無い中で、準備から本番そして、ビジネスマッチングのフォロー等体験できました。

アサヒ化工(株)
諸岡社長

働く仲間(女性)や、経営TOPが会場を盛り上げてくれました。講演者も来場者もこれからの活動に役立つことと思います。

第1会場 企業展示コーナー

市内中小企業の自慢の製品やアイデア商品の展示、自社の取り組みやモットーのPR等を通じて、企業の強みや魅力を大いに発信しました。当日は出展企業36社と関連機関5団体のご協力をいただきました。

展示コーナーのねらい

- 1・この技術で頑張っていると市民の皆さんに知っていただく。
- 2・自社の持ち味・独自の技術・魅力を発信。体験の場とする。
- 3・異業種間交流で、新商品を生み出す発想の場として活用。
- 4・ビジネスマッチング接点の場の提供

(14件の接点があり今後の進展が大いに期待されます)

企業の声

若手社員を中心に『興味を持っていただける』体験型ディスプレイをテーマに企画～本番まで取り組みました。当日は多くの方にご来場いただき好評で、貴重なご意見もいただきました。社員のやりがいに結びつくイベントとなりました。



第2会場 すずか輪ゴムグランプリ

輪ゴムを動力とし、1台で距離・牽引・スピードと3種類の異なったコースを走破する競技です。ものづくり技術の見せどころの場であり、大人から子どもまで同じ土俵で戦い皆で楽しむ、こんな思いの企画です。市内企業12社と児童がそれぞれの夢を形にした愛車を持ち寄り、白熱した競技を展開し大いに会場を沸かせてくれました。



競技参加者の皆さん 愛車とともに記念撮影

●競技記録

・オーバルコース ・トラックターコース

優勝 チーム名 ティ・エステック何でも直します

チームリーダー 塚本隆司さん

オーバルコース距離・・・29.45m

トラックターコース距離・・・5.55m

・ドラッグコース

優勝 チーム名 ZAN マッハ!! GOM

チームリーダー 真弓孝之さん

この競技を通じて 『考える楽しみ』・『作る苦労を楽しむ』・『本番を楽しむ』こうしたプロセスの中で仲間意識やチームワークを築く。この体験を通して仲間と、ものづくりの楽しさを再発見していただきました。また、若くて有能な企業従業員の発掘にもなり、今後のセンターの人材育成研修への参加が期待できます。

第3会場 勉強会

勉強会 150余名が参加!!

勉強会1部 経営者3人の『ユニーク・アイデア経営者の生の声を聴く』では先を見据えた経営方針の種まきの重要性を自らの体験を踏まえ語っていただきました。

また、『現場を支える女性の力』では新入社員の苦悩と克服体験、男女の性別ではなく個の能力を最大限に発揮することの大切さを力強く話す姿が印象的でした。

来場者からは、「うちの社長がいい話をしてくれた。あんな体験があったとは・・・社長の秘話に感動した」。また女性の講演では「社を挙げて応援し、職場が盛り上がった」との声をいただきました。

基調講演として、名古屋市立大学大学院の國本桂史教授より医療福祉機器開発の現状、技術を活かすポイント、鈴鹿のものづくり企業にも大いにチャンスがある等を、ユーモアを交えてご紹介いただきました。

講演者の声

勉強会の講師として振り返りができた。夢中でかけてきた過去のさまざまな出来事を反省することで、この先に活かしていきたい。



勉強会の様子